

低気圧と前線による大雨に伴う災害に係る
第 6 回災害対策本部員会議での知事の主な発言

1. 会議冒頭の発言

- 本日 16 時時点で、依然として行方不明者が 2 人、安否不明者が 5 人にのぼっている。引き続き、被害状況の把握、人命救助に全力を挙げてほしい。
- 孤立集落等については、昨日の 56 箇所から 10 箇所減少し、46 箇所となった。関係者の皆様にはご苦勞をおかけするが、引き続き、道路啓開をはじめ、電気、上下水道、通信の復旧に全力を挙げてほしい。
- 本日、私は輪島市の町野地区と門前地区を訪問し、浸水状況や土砂災害等の状況を確認するとともに、被災者の方々から生の声をお聞きした。

具体的には、

- ・ 町野地区では、被災者の方々から、とにかく電気、水、通信のライフラインの確保をお願いしたいとの切実な声をちょうだいした。また、一日も早く、泥かき等のボランティアを大規模で投入する必要があると痛感した。
- ・ 門前地区では、おさよトンネルが不通になったことで、七浦地区の仮設住宅で 200 人程度が丸々孤立している。坂口市長から、被災者をヘリで二次避難先に移送することを検討してほしいと要請があった。

今後、泥かき等のボランティアの大量派遣に向け、今晚 19 時より、県社協、県、市町、全国規模の NPO を集めた

オンラインでの工程管理会議を立ち上げ、日々、ボランティア作業の枠組みや段取りについて情報交換を進める。

市町にお願いすることの詳細は、今晚のオンライン工程管理会議でお伝えするが、まずは市町として、泥の持込み先等のルールの早期策定をお願いしたい。

二次避難については、今後、輪島市の方で、被災者お一人お一人のご意向を伺うこととなっており、県としても、二次避難先となる受け皿の確保に動き出している。

- 浸水した仮設住宅については、これまでに、県の建築職員や施工業者による緊急点検を実施したところ、構造的な被害は確認されなかった。

このため、本日から、特に浸水被害が甚大な、輪島市の宅田第2団地において、ボランティアの方々にご協力をいただき、家財の運び出しや泥出し作業を開始した。

今回浸水被害にあわれた方々にとっては、ようやく仮設住宅に入居できた矢先のことであり、丁寧にご意向を伺いながら、復旧を急ぐ。

- 被災事業者の支援については、本日、中小企業庁が、災害救助法の適用地域に対し、特別相談窓口の設置や、既往債務の返済条件の緩和など、いわゆる「5点セット」による支援の実施を決定した。

既に能登半島地震関連の相談窓口となっている、各商工会議所・商工会や信用保証協会、県の事業者支援センターなどで相談を受け付けることとしており、事業者の皆さんにおかれては、遠慮なく相談いただきたい。

- 視察をして切実に厳しい状況と実感したのは、河川がほぼ越水している。河川周辺の水田は、50メートルから100メートル、ひどいところでは200メートルくらい、泥水が入り込んでいる。

おそらく、先の週末にも収穫の予定であったと思われるが、収穫は厳しい状態である。農業団体、農業関係者等と連携をとってほしい、川沿いの水田、畑、人家等も、上流から流れてきた木材で溢れかえっている状況で、1月の大震災の後以上の凄まじい状況である。

このことも踏まえ、被災者の立場に立って対応を考えてほしい。

2. 会議最後の発言

- 明日、にわか雨が降るという予報が出ている。わずかな雨でも大変危険であるので、がけ地などに近付かないよう、注意してほしい。
- 被災者の皆さんは、道路・電気・上下水道・通信のインフラ確保を待ち望んでいる。一刻も早い復旧に向けて、全力をあげてほしい。
- 通信については、支障エリアの避難所にスターリンクを設置したところであるが、通常の音声通話については基地局が回復するまでは引き続き使えないため、LINE等のインターネット通話を活用するよう、被災者に対して分かりやすく伝えてほしい。
- 孤立地域の数は減ってはきているものの、その状況をしっかりと把握し、避難所も含め、物資の支援、生活支援に

最大限の対応をお願いしたい。被災者データベースも有効に活用してほしい。

- 本日の視察でも痛感したが、一日も早い復旧のためには、ボランティアの皆さんのお力が不可欠である。市町等と連携のうえ、今夜から開始する工程管理会議を通じて、ボランティアの増員について検討を急いでほしい。

市町の社会福祉協議会も既に疲弊している。いわゆる専門ボランティア団体やNPOなどと連携して、早期に多くの方にボランティアとして入っていただけるよう、工夫してほしい。